

「明治のガスタンク基礎」展示

横浜都市発展記念館・横浜ユーラシア文化館（横浜市中区）の中庭が大幅にリニューアルし、13日から展示が始まった。

これまでも展示していた「国内最古

新たに横浜市瓦斯局の遺構などが展示された中庭—13日、横浜市中区の横浜都市発展記念館・横浜ユーラシア文化館



横浜発展記念館 中庭を新装

のガス管」と「卵形下水管」に加え、「横浜市瓦斯局のガスタンク基礎」と「神奈川台場の石」の2つが新たに追加された。

ガスタンク基礎は今年7月、市立本町小（同区）の校舎増築工事に伴う発掘調査で見えられた。横浜市瓦斯局時代の明治39（1906）年に増設されたガスタンクの基礎部分で、円筒形のタンクを支えるため、基礎も二重の円形をしているのが特徴だ。

祝砲を放つ砲台として利用されてきた神奈川台場の石は神奈川区内のマンション建設工事で発見された。

同館の上山和雄館長は「中庭を訪れてまだまだ知られていない神奈川の歴史を知ってもらいたい」と話している。